

琉球大学学術リポジトリ

[記事](研究発表会要旨)サトウキビ高度総合利用に関する新技術システムの開発

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 江藤, 穂積 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017234

⑨ サトウキビ高度総合利用に関する新技術システムの開発

東洋エンジニアリング(株) 江藤徳積

“サトウキビ”は、太陽エネルギーの利用効率が高い植物であり、化石資源と異なり再生可能な資源として、その有効活用については既に多くの提案がなされている。

一方“砂糖産業”は、嗜好の変化による砂糖の摂取量の減少や、ダイエット甘味料の出現などで、その需要は減少すると予想される。加えて、我国の砂糖の価格は、海外に比べ約3.4倍と発表されており、サトウキビの高度利用等による競争力向上の対策が必要である。

弊社は、現在新燃料油技術開発研究組合（RAPAD）に参加し、ベンチ、プラントでのバイオマス、アルコールの製造技術開発中である。この中にはサトウキビの総合利用上活用可能な新しい要素技術の開発が含まれているが、これらの活用を含めて、サトウキビの生産地である沖縄において、より高付加価値生産物の総合生産システムと生産技術の確立、企業化を進め、更には、確立された技術、システムをサトウキビ大量生産国へ技術輸出を行なうことを目標とした。沖縄の地域経済発展に寄与する大型プロジェクトとしての新技術システムの開発を提案する。

討論会「サトウキビの総合利用は可能か」

第3回研究発表会当日、同じ沖縄県工業試験場において、部会活動の一環として討論会が開催された。テーマはサトウキビの総合利用に関するもので、低迷を続ける糖業の新たな展望を開くものと各方面からの期待も大きく150名余の参加があり、時間一ぱい活発な討議が行われた。

1. パネラーおよび提供話題（司会：琉球大学農学部教授 國府田佳弘氏）

- (1) 甘蔗利用に関する技術の現状と課題
 沖縄県工業試験場化学室長 照屋輝一氏
- (2) サトウキビの総合利用の可能性
 北部製糖（株）常務取締役 垣花郁夫氏
- (3) サトウキビの総合利用の可能性
 沖縄県経済連常務理事 仲本正男氏

